第2回

ポーランド・リトアニア・ラトビア

日本人との繋がりが強い3ヶ国を巡る「人道の旅」

福井県敦賀市に、1920年代のポーランド孤児や先の大戦で迫害されたユダヤ人が上陸した人道の港があります。またリトアニアでは、ユダヤ人を守るために奮闘した日本人外交官にもクローズアップ。日本とヨーロッパの絆を実感しました。

学習プログラム

駐日ポーランド大使館 特別講義

第2回プログラムは、第二次世界大戦中にナチスの迫害から逃れるためユダヤ人約6,000人にビザを発給した外交官・杉原千畝氏が赴任していたリトアニアや、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所、そして日本国内の活動地として、ポーランドからの孤児たちを受け入れていた福井県敦賀市の訪問など、各国の歴史をたどる「人道の旅」プログラムといえるものでした。授業では、訪問国の大使館より特別講義等が行われました。

交流先とのオンライン授業

渡航に向け、日本文化や難民問題について学び、さらに学生たちは各自でプレゼンテーマを考え発表資料を作成しました。作成資料について、交流先のヴィタウタス・マグヌス大学の学生よりコメントが寄せられ、現地大学とのスカイプによる交流が実現しました。その後、プレゼンテーションの練習やリハーサルを行い、全履修学生のプレゼンテーションを動画にまとめたことで、学生たちの成長の記録にもなりました。

留学生との交流

駐日ポーランド大使館、駐日リトアニア大使館の協力を経て、文化交流イベント「川越ウォーク」を成果外活動として実施。ポーランドとリトアニアからの留学生やインターン学生を招待して、文京学生がもてなす側となり、ふじみ野キャンパスからほど近い日本を代表する古都「小江戸・川越」をともに散策しながら街を心を込めて案内しました。自分たちの言葉で日本について発信を行い、日本の文化を感じてもらいました。

スケジュール

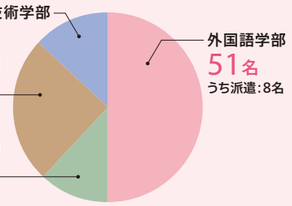
2014

- 4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a
- 9月：新・文明の旅 特講b
- 10月：AAR Japan（「難民を助ける会」）の穂積武寛氏による講義
- 12月：派遣学生選抜発表

2015

- 3月：新・文明の旅 派遣プログラム 3月4日～3月20日
- 4月：新・文明の旅 総合講義
- 10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：102名）



2015＋2019

Republic of POLAND　Republic of LITHUANIA
Republic of LATVIA

「新・文明の旅＋（プラス）」
ラトビア・リトアニア交流プログラム ➡ P27

派遣プログラム

Poland ポーランド

ヤゲヴォ大学訪問

ヤゲヴォ大学は651年の歴史があり、古い校舎ですがとても綺麗な歴史ある建物でした。現地学生たちと自己紹介などをした後、お昼を食べに出掛けた中央広場にはヨーロッパ建築がたくさんあり、息をのむほど美しい光景が広がっていました。昼食はその光景を見ながら外でポーランド料理を味わいました。その後も自由散策を楽しみ、互いの仲を深める良い機会となりました。

箸を使って豆つかみレースに挑戦

Lithuania リトアニア

ヴィタウタス・マグヌス大学訪問

プレゼンの他にも、習字の一筆リレーを楽しみました。想像以上の参加者数で会場は熱気に包まれました。その後、多くの学生とホストファミリー、現地の先生方も集まりホームパーティーが開催されました。ホームパーティーでは、リトアニアの学生がリトアニア料理を、学生たちは日本料理を作ることになり、肉じゃがとオムライスを作りました。日本と同じ調味料や具材を探すのが難しい中、かなり日本の味に近い美味しいものが出来ました。

ワークショップで現地学生と仲良くなりました

Latvia ラトビア

ラトビア大学訪問

ラトビア大学で「食糧事情と選挙」、「コスプレ」、「捕鯨とメディア」、「お箸」等のプレゼンテーションを行いました。それぞれのトピックに様々な反応や質問などがあり、現地学生に「面白い発表だったよ」と声をかけてもらえました。現地学生も「歌と踊りの祭典」、「夏至のお祝い」、「ラトビア語」、「ラトビアのお菓子・料理」について流暢な日本語で紹介してくれました。現地学生の日本語能力にはとても驚きました。

現地学生に理解してもらえるように工夫しながら交流

敦賀プロジェクト（国内フィールドワーク）

第2回「新・文明の旅」の訪問3ヶ国のなかでも、ポーランド、リトアニアと関わりが深い、福井県敦賀市で「新・文明の旅」履修生が国内フィールド活動を行いました。資料館や博物館などをめぐり、関係者へインタビューをしながら多くの情報収集を行い、なぜ敦賀が「人道の港」と呼ばれるようになったのか、そして、ユダヤ人難民の受け入れと関連の深い杉原千畝氏について学んでいきました。学生たちが行った関係者へのインタビューは彼らの視野を広げるうえで非常に有意義な機会でした。この国内フィールドワークで収集した情報を、皆で話し合いながら整理をして、プレゼンテーション資料を作成し、リトアニアのヴィタウタス・マグヌス大学において、スカイプを介してその活動報告が行われました。

Republic of POLAND
Republic of LITHUANIA
Republic of LATVIA

Interview

第2回 新・文明の旅 派遣メンバー
外国語学部 2017年度卒業

木村 太郎さん

卒業後は、セールスプロモーショングッズの企画・販売をメインとする総合商社で働く。ノベルティの企画営業を経て、現在は総務として活躍中。プログラム終了後もリトアニアに旅行で訪問。ホストファミリーに再会を果たした。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

自分の中にそれまでなかった風が吹いた感覚がありました

日本との歴史的な背景が訪問国と友好的な関係を形成していた

第2回で訪問した国はいずれも親日の国。私たちは、リトアニアでの杉原千畝氏によるビザ発給、ポーランドの孤児受け入れなど、日本との歴史的背景を特講などで学んでから現地へと向かいました。実際、現地の日本語学科の学生たちと触れ合い、会ってすぐ上手な日本語で「どこの街から来たの？」と話しかけてくれたことや、ホストファミリーとの会話からも、人々は日本にとても興味があることが伝わってきました。そこから分かったことは、日本の過去の人々がこの友好関係をつくってきたこと。歴史が今につながっており、そしてまた自分たちの行動も未来につながるということを改めて実感しました。

また現地の学生は、「自分は将来こうなりたくて、この勉強をしている」など、普段の会話からみんな自然と話していました。その目的意識を持って学ぶ姿勢には刺激を受けましたし、自分の将来を改めて考え直すきっかけになりました。世界の同世代の学生たちの考えを知り、意見を直接聞けたことは、お互いの理解にも近づいたのではないかと思います。

そしてやはり衝撃的だったのは、アウシュビッツ強制収容所を訪問したことです。実際に毒ガスがまかれた部屋、人を撃っていたためボコボコとした壁。そういうことをしていた場所に立つという経験は、普通に生きていてなかなかできないと思いましたし、言葉にできない気持ちや歴史の重みを感じました。

日本でテレビや映像を見ていたときには、無意識に自分とは別世界だと思ってしまっていた、東欧・バルトの国々。当たり前ですが、街並みも歩いてる人も日本とは違います。足を運んで、空気を感じたことで、自分の中にそれまでなかった風が吹いた感覚が生まれました。それは、自分と世界が本当の意味でつながりを持った瞬間だったのかもしれません。

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

お答えいただいたのは・・・

ヴィタウタス・マグヌス大学
クリスティーナ・バランツォヴァイテ・スキンダラヴィチエネ先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？

文京学院大学の学生が私たちの大学を訪問され、日本語や日本文化を専攻する本学の学生と協同活動を行なったこの独創的なプログラムはとても素晴らしいと思います。学生達がお互いに得られる専門的な知識や異文化に関する知識を多面的に含んでます。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは？

リトアニアの学生にとって、日本の学生の視点から自国の文化などを確認でき、将来的にビジネスや文化面で協力関係を築くためのアイデアを生み出すきっかけになった人もいると思います。また、異なる文化を持つ学生間のコミュニケーションの障壁を取り除くことができました。言葉の壁や文化的背景の違いによる理解の難しさという恐れを克服し、リラックスした雰囲気の中でお互いに学び合うことを楽しんだと思います。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

是非国と文化の架け橋となるこの素晴らしいプログラムを継続してください。本学も貴学とともに今後もさまざまな魅力ある文化活動に参加できることを楽しみにしています。

College Information

ヴィタウタス・マグヌス大学

住所：K. Donelaičio g. 58, Kaunas 44248 LITHUANIA

リトアニア第二の都市カウナスにある、同国最古の国立総合大学です。カウナスは日本人外交官だった杉原千畝の名が広く知られている街で親日家が多く、東アジアプログラムに属する多数の学生が日本語を学んでいます。